

令和8年度第1回小牧市廃棄物減量等推進審議会 議事録

|      |   |
|------|---|
| 日 時  | 令和8年5月18日(月) 午前10時00分～午前11時00分  |
| 場 所  | 小牧市役所 本庁舎4階 404会議室  |
| 出席者  | <p><b>【委員】</b></p> <p>野村 重樹 区長会代表者<br/>         中野 幹也 区長会代表者<br/>         船橋 充 区長会代表者<br/>         丹羽 俊久 区長会代表者<br/>         稲垣 淳郎 区長会代表者<br/>         長谷川 隆則 区長会代表者<br/>         稲垣 幸子 小牧市女性の会<br/>         今枝 正 こまき環境市民会議<br/>         宇佐美 史夫 小牧市消費生活改善推進委員会<br/>         長谷川 宜史 小牧商工会議所<br/>         高橋 美喜雄 愛知県食品衛生協会 小牧支部<br/>         斉木 良二 公益社団法人愛知県宅地建物取引業協会北尾張支部<br/>         小澤 美苗 公募委員<br/>         今枝 稔明 公募委員<br/>         馬場 容子 公募委員</p> <p><b>【事務局】</b></p> <p>小川 真治 市民生活部長<br/>         堀田 正二 市民生活部次長<br/>         渡邊 浩 カーボンニュートラル推進課長<br/>         梅村 知成 環境保全課長<br/>         加藤 宗礼 リサイクルプラザ所長<br/>         鈴木 勇司 カーボンニュートラル推進課環境政策係長<br/>         吉本 寛史 カーボンニュートラル推進課環境政策係長<br/>         若山 愛美 カーボンニュートラル推進課環境政策係主査<br/>         多田 匠 カーボンニュートラル推進課環境政策係主事</p> |
| 欠席者  | <p>志村 雄司 一般社団法人小牧青年会議所<br/>         市岡 信英 尾張中央農業協同組合<br/>         清田 啓嗣 株式会社不二屋(ナフコ)<br/>         清水 真 中部大学<br/>         伊藤 瞳 公募委員</p>  |
| 傍聴者  | 0名  |
| 配布資料 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・次第</li> <li>・委嘱状</li> <li>・小牧市ごみ処理基本計画(令和2年度～令和6年度)</li> <li>・小牧市ごみ処理基本計画(令和8年度～令和17年度)</li> <li>・令和8年度審議会委員名簿及び次第3について</li> <li>・議事:小牧市ごみ処理基本計画の進捗状況について</li> <li>・報告:フロン使用製品の排出方法変更について</li> <li>・令和8年度小牧市一般廃棄物処理実施計画</li> </ul>  |

## 主な内容

- 1 委嘱状交付  
市民憲章唱和、委嘱状交付、市長挨拶
- 2 あいさつ  
手持ち資料確認、委員及び事務局自己紹介
- 3 小牧市廃棄物減量等推進審議会について  
・次第3の資料に基づき、廃棄物減量等推進審議会、廃棄物、近年の施策及び燃やすしかないごみの組成調査について事務局より説明。
- 4 議事
  - (1) 会長及び副会長の選出について  
・立候補及び推薦がなかったことから事務局案の提示を求められたが、当該候補者の諸事情により、本件は次回会議において改めて協議することとした。
  - (2) 目標達成に向けた取組（小牧市ごみ処理基本計画）の進捗状況について  
・「議事（2）小牧市ごみ処理基本計画の進捗状況について」の資料に基づき、小牧市ごみ処理基本計画（令和2年度～令和6年度）の進捗状況について事務局より説明。
- 5 報告  
フロン使用製品の排出方法変更について  
・報告「フロン使用製品の排出方法変更について」の資料に基づき、事務局より説明。  
  
・質疑応答について下記のとおり。

### 議事（2）目標達成に向けた取組（小牧市ごみ処理基本計画）の進捗状況について

（今枝 稔明 委員）

資料P.2にあるとおり、事業系ごみに占める資源の割合が目標値に達しなかったとある。一方、ごみ処理基本計画（令和8年度～令和17年度）P.20には多量排出事業者へ減量化等計画書の提出を義務付けるとあるが、多量排出事業者の排出量は、市内事業者全体のうちどれぐらいの割合になるのか。また、目標をどのようにクリアしていくのか。

（事務局）

市内事業者全体に対する割合については把握していない。減量化等計画書については、約200弱の事業者に提出いただいているが、内容として、前年度実績と今年度予定の一般廃棄物排出量や再資源化量を記載いただいている。そのため、再資源化が進んでいない事業者に対して、市内外の再資源化処理施設への搬入促進や案内、課題の聞き取り等を行っていくことを考えている。

（今枝 稔明 委員）

おそらく、事業者ごとに廃棄物削減計画や目標を作っていると思うので、そういったものを利用しては良いと思う。また、市から各事業者に市の目標を提示し、達成するための計画を作るよう要請してはどうか。

また、資料P.5の「民間再資源化施設への食品残渣や剪定枝類などの搬入促進」の搬出量実績にあるバイオス小牧にはどういったものが搬入されているか。

（事務局）

市内外の飲食店事業者や食品製造工場などから排出される食品残渣が搬入されている。また、昨年度には名古屋市からの搬入が非常に増加した。

（今枝 稔明 委員）

バイオス小牧では、食品残渣を電気に変えているということで、小牧市の家庭から出る生ごみも搬入し、電気に変え、それを買い取り、市内の施設で使用するという流れができれば、カーボンニ

ュートラルにも繋がり、小牧市のPRにもなると思う。なかなか生ごみだけを取り出すというのは難しいと思うが、検討いただきたい。

(事務局)

市としても3年ぐらい前から検討を進めているが、収集運搬費が莫大にかかることから、昨年度は生ごみの減量化を促進するため、家庭用生ごみ処理機器購入費の補助率を上げるなどの施策を実施していた。ただし、最終的には、委員が仰るように各家庭の生ごみを再資源化施設へ搬入できることが望ましいため、引き続き検討していきたいと思う。

(宇佐美 史夫 委員)

再資源化率が、県内の市の中では9年連続1位ということで、引き続き再資源化に取り組んでいていただきたい。

質問として、3点ある。

- ①ごみ処理基本計画（令和8年度～令和17年度）P.30に記載の最終処分量が全国平均、愛知県平均よりも大幅に下回っていること、その要因は何か。
- ②小牧岩倉エコルセンターの隣にある温水プール土地の再活用など方向性はどのようになっているか。
- ③人口が減少する一方で世帯数が増えているということで、その要因は何か。

(事務局)

- ①市は、平成27年度からシャフト炉式ガス化溶融炉を使用しており、1800度の高温で溶かすことから、一般的な焼却処理するストーカ炉と比較すると、焼却灰がほぼ出ないことから埋め立ても少なくなっている。
- ②温水プールについては、所管課が異なるが、今のところ公表されているように何か予定があるわけではない。
- ③主に、高齢化による独居高齢者の増加や未婚率上昇による単身世帯の増加が要因と思われる。

以上